

## 東北地域向けの観賞用水稻新品種「祝い茜」、「祝い紫」

### 研究のねらい

現在、水田の新たな有効利用法の一つとして景観作物としての観賞用稲を作付けする動きが高まっている。2005年に葉に白縦縞が入り穂が紫色の観賞用品種「奥羽観383号」を育成したが、その後、色や形が異なる複数の観賞用品種を利用したいという要望が高まっていた。そこで、東北地域向けの新たな赤穂と紫穂の観賞用品種を育成する。

### 成果の内容

- ① 「**祝い茜**」は、出穂期と成熟期が“早生の晩”で、穂が赤色の水稻ウルチ品種である（2008年品種登録出願）。
- ② 「**祝い茜**」の穂には赤褐色の長い芒（ぼう）があり、穎花も赤色になるため、穂ぞろい期には穂全体が赤色に見える。葉は緑色で、赤穂とのコントラストが美しい（図1）。  
成熟期には芒および籾の赤色はあせてくる。
- ③ 「**祝い紫**」は、出穂期と成熟期が“晩生の早”で、穂が紫色の水稻ウルチ品種である（2008年品種登録出願）。
- ④ 「**祝い紫**」の穂には紫色の長い芒があり、穎花も紫色になるため、穂ぞろい期には穂全体が紫色に見える。葉は緑色で、紫穂とのコントラストが美しい（図2）。成熟期には芒および籾の紫色は若干あせてくるが、紫色は残っており十分観賞可能である。



図1 「**祝い茜**」の草姿と穂(右上)



図2 「**祝い紫**」の草姿と穂(右上)

### 成果の利活用

- ① 水田の景観作物、切り花、ドライフラワー、ワラ細工等に利用できる。
- ② 白縞葉・紫穂の「奥羽観383号」、赤穂の「**祝い茜**」、紫穂の「**祝い紫**」と組み合わせることで、色や形のバリエーションが増え、利用価値が高まる。
- ③ 観賞に適している期間は気象条件にもよるが、「**祝い茜**」は出穂から出穂後20日程度で、「**祝い紫**」は出穂から出穂後40日程度である。

